

## 【参考資料 2】

第 2 回竹原市下水道使用料審議会議題資料

## 第2回竹原市下水道使用料審議会次第

日時 令和5年9月14日(木)13時30分～

場所 竹原市市民館3階第5会議室

- 1 開会
- 2 議題
  - (1) 第1回審議会の概要整理(振返り)
  - (2) 今後の収支計画と経営指標の見通しについて
  - (3) 改善目標と使用料適正化の検討について
- 3 その他
- 4 閉会

### 【配布資料】

- 次第(本紙)
- 委員名簿
- 配席表
- 竹原市下水道使用料審議会(第2回)議事録

議題資料 第2回竹原市下水道使用料審議会議題資料

参考資料1 竹原市下水道事業経営指標一覧

参考資料2 現状における竹原市下水道事業収支計画(詳細版)

参考資料3 広島県内市における公共下水道使用料の料金表比較

参考資料4 新旧下水道使用料比較一覧表(2カ月分)

審議会資料につき  
取扱注意(非公開)

## 第2回

# 竹原市下水道使用料審議会

令和5年9月14日  
建設部 下水道課



## 【目 次】

- 1 第1回審議会の概要整理（振返り）
- 2 今後の収支計画と経営指標の見通し
- 3 改善目標と使用料適正化の検討
- 4 その他

## 【目 次】

- 1 第1回審議会の概要整理(振返り)**
- 2 今後の収支計画と経営指標の見通し
- 3 改善目標と使用料適正化の検討
- 4 その他

# 1 第1回審議会の概要整理（振返り）

## （1）下水道事業を取り巻く課題（人口減少）

- ◆竹原市の人口は減少傾向であり、今後も減少することが見込まれています。
- ◆下水道の整備区域を拡大している期間は、下水道の利用者数の増加が見込まれますが、整備終了後は、人口減少に伴って、利用者数は減少に転じることが見込まれています。



利用者数の減少に伴って、使用料収入が減少するため、**将来の人口減少を見据えた収支計画が必要**

# 1 第1回審議会の概要整理（振り返り）

## （1）下水道事業を取り巻く課題（人口減少）

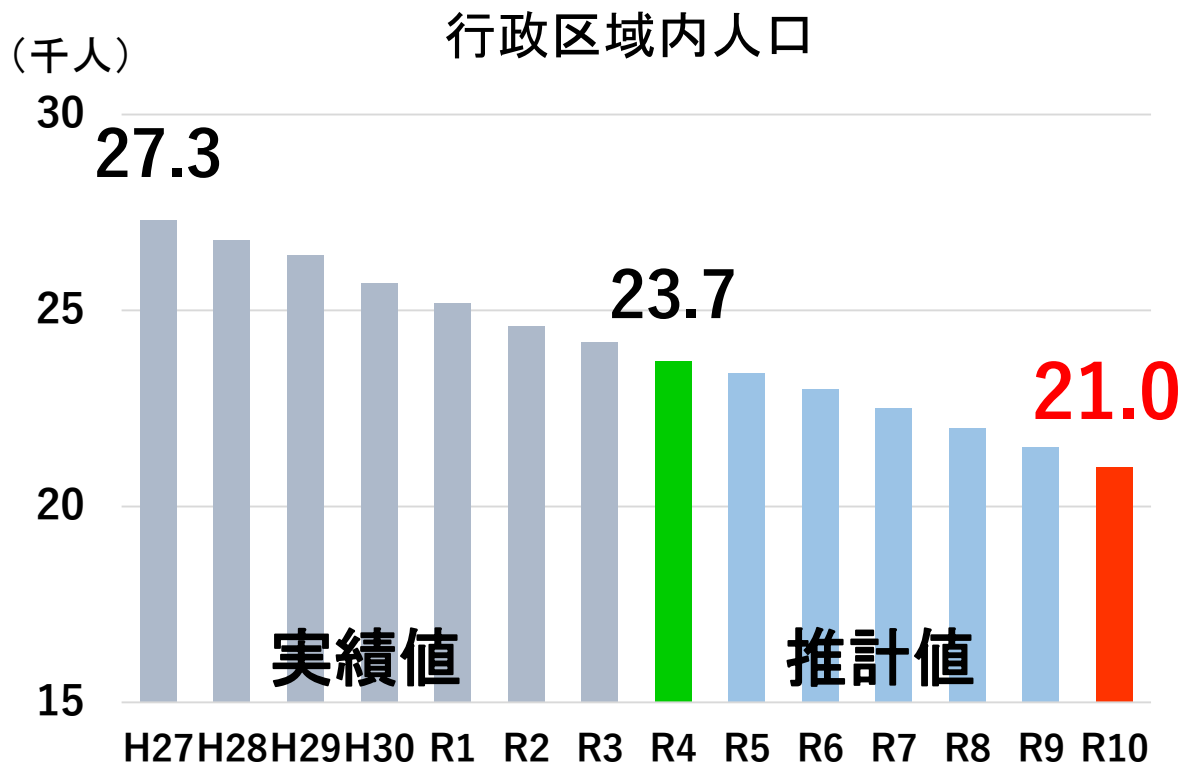
**竹原市人口 → 減少傾向**



**人口減少を見据えた  
収支計画**

# 1 第1回審議会の概要整理（振返り）

## ① 竹原市の人口予測



## 人口推計

毎年  
約 2% 減

※出典：第6次竹原市総合計画

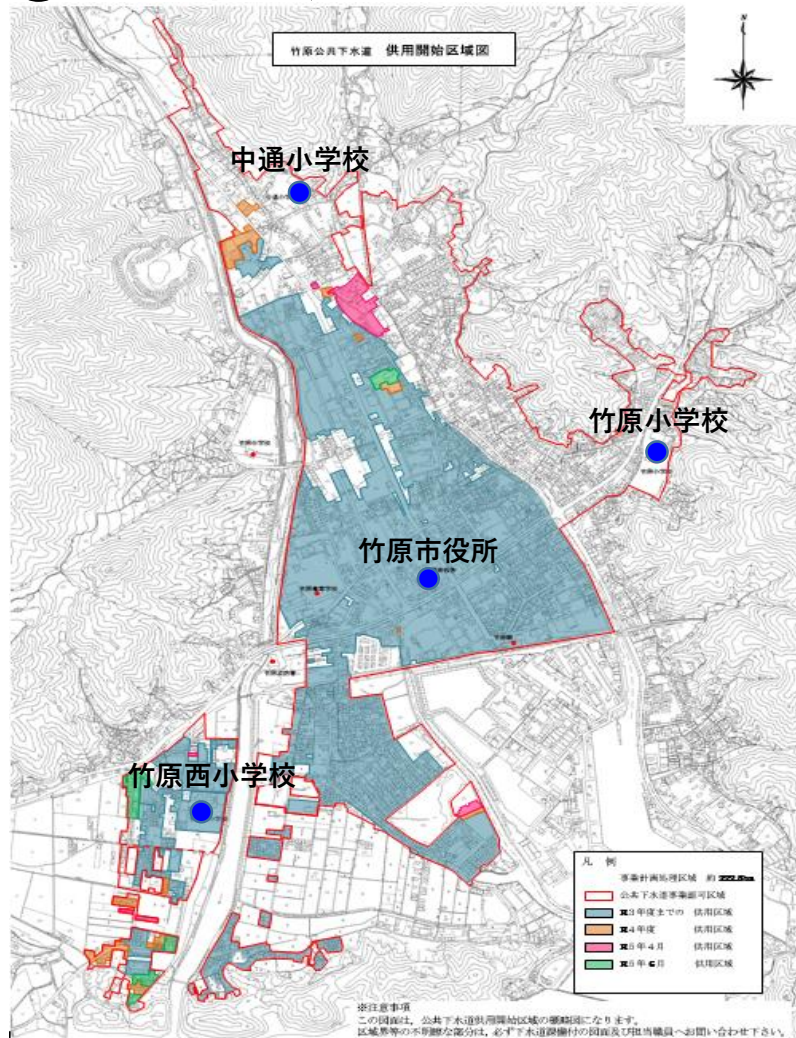
平成27年(2015)から令和4年(2022)は9月末の実績値

令和5年(2023)以降は推計値



# 1 第1回審議会の概要整理（振返り）

## ② 整備予定区域



○下水道整備予定面積  
222.5 ha

○下水道整備予定人口  
7,090人

○整備完了目標年度  
令和9年度

○整備状況（令和4年度末）

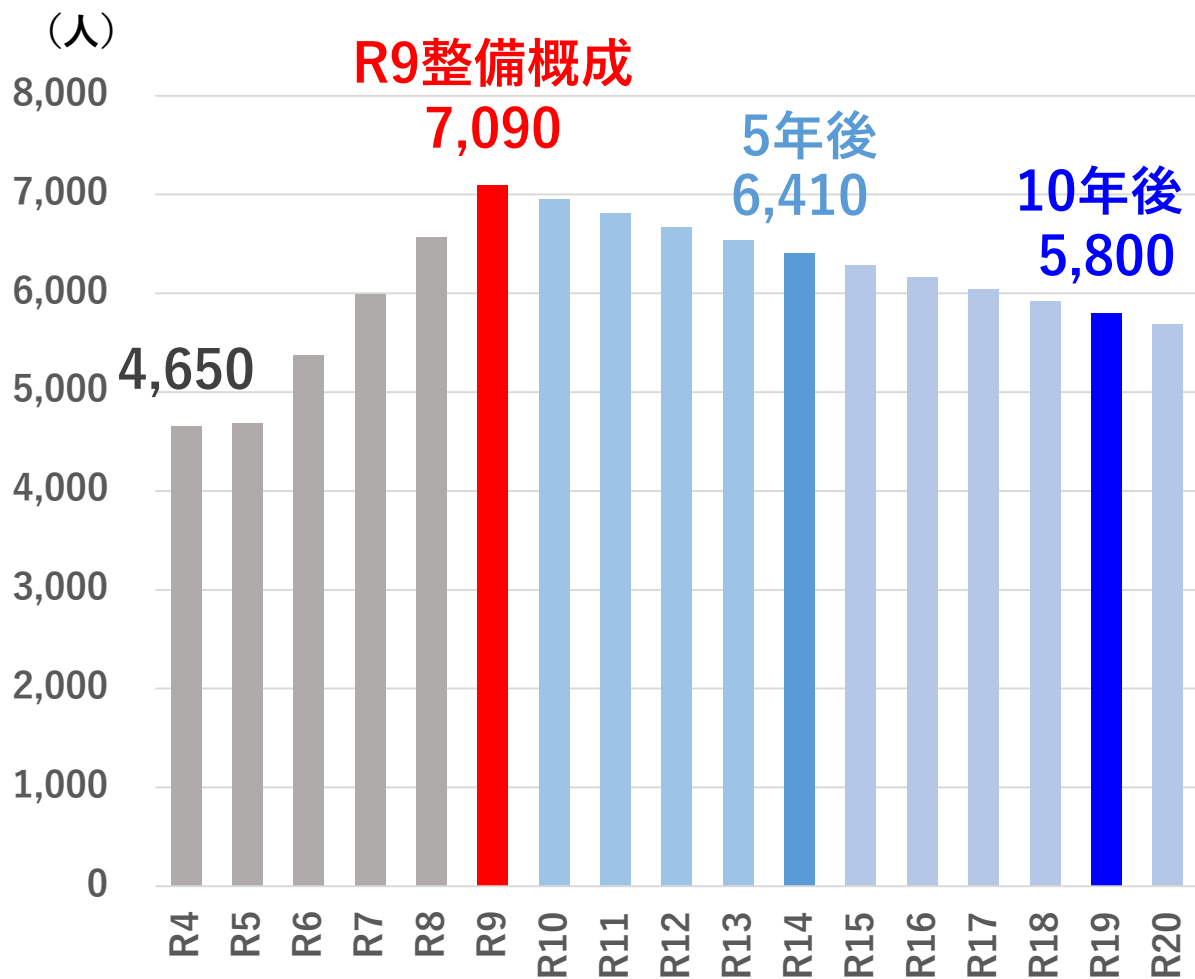
整備面積 123.7 ha

整備率 55.6%

整備済人口 4,650人

# 1 第1回審議会の概要整理（振返り）

## ③ 下水道の整備人口予測



# 整備目標



# 令和9年度 整備概成

# 1 第1回審議会の概要整理（振返り）

## ④ 下水道の接続状況

下水道が利用可能（供用開始）となった後に、  
下水道へ接続する家屋等の割合

整備完了後 経過年数	1年後	2年後	3年後	4年後	5年後	6年後	7年後	8年後
下水道へ接続する 家屋の割合	35%	58%	71%	81%	85%	89%	92%	95%

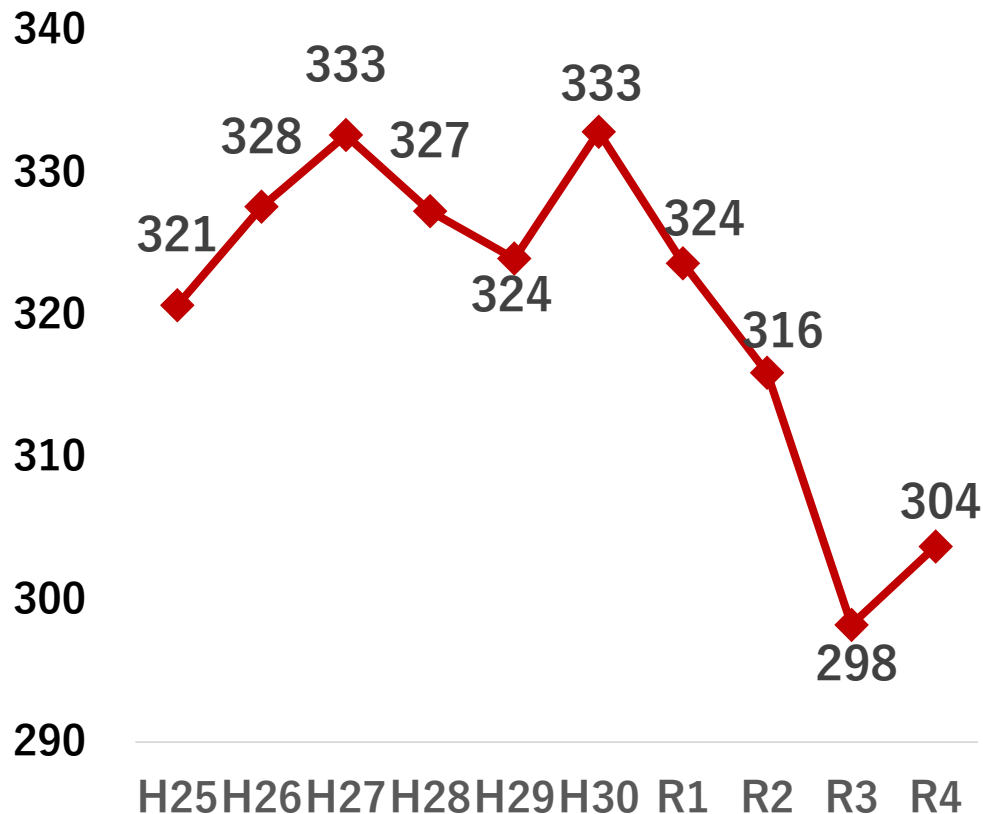
（竹原市における過去の接続実績より）

# 1 第1回審議会の概要整理（振返り）

## ⑤ 1人あたりの1日排水量

○ 1人あたりの  
1日排水量

(ℓ/日)



≒ 300ℓ

○ 1人あたりの  
1カ月使用水量

≒ 10m<sup>3</sup>

### 下水道使用料負担

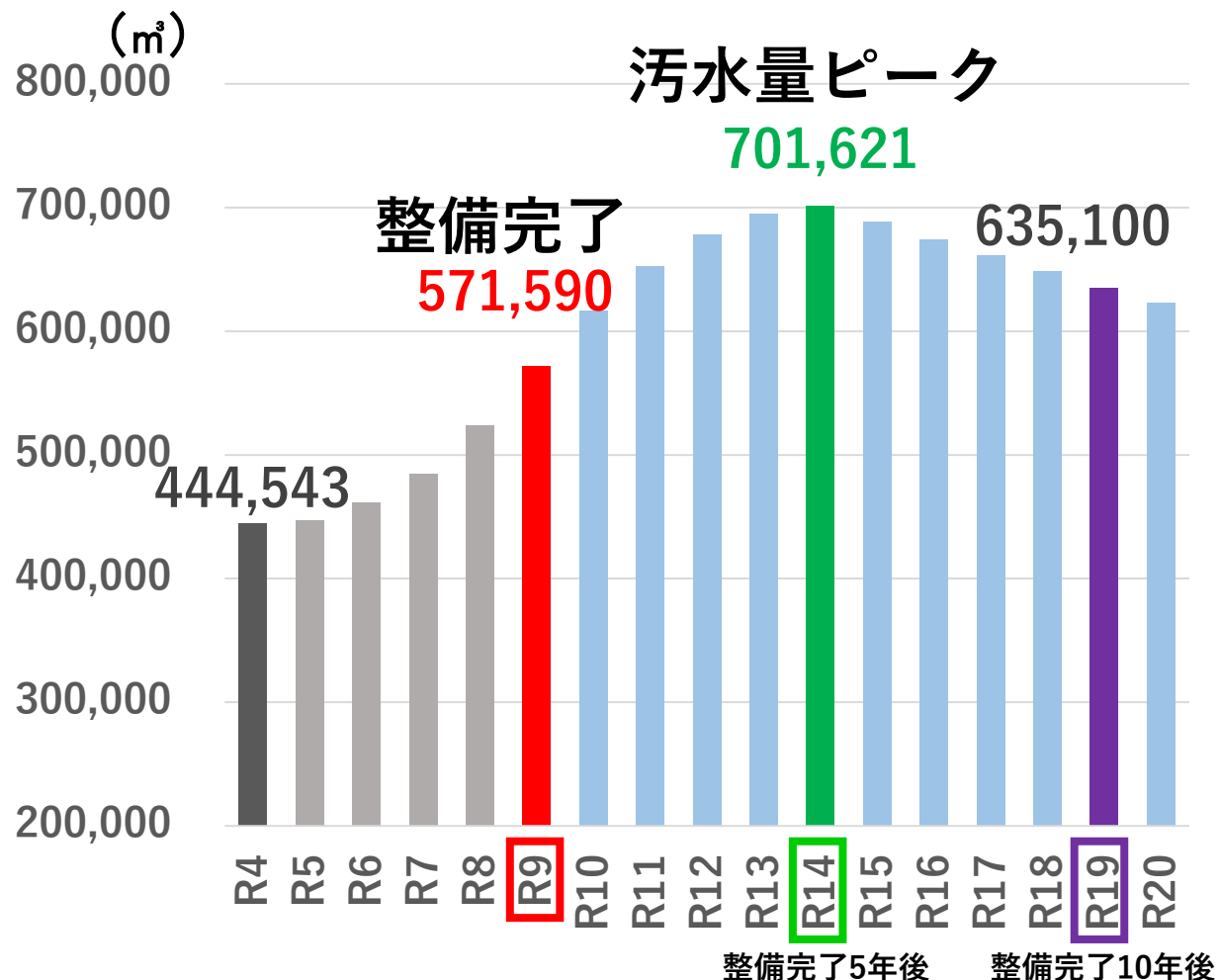
1人世帯 ⇒ 10m<sup>3</sup>/月

2人世帯 ⇒ 20m<sup>3</sup>/月

3人世帯 ⇒ 30m<sup>3</sup>/月

# 1 第1回審議会の概要整理（振返り）

## ⑥ 下水道使用料の対象となる排除汚水量予測



# 1 第1回審議会の概要整理（振返り）

## （2）下水道事業を取り巻く課題（更新需要の増加）

◆平成18年度に供用開始した竹原浄化センターや中央第2雨水排水ポンプ場などの**機械・電気設備**が**耐用年数**を経過し、施設の修繕や設備の更新に係る経費が増加することが見込まれています。

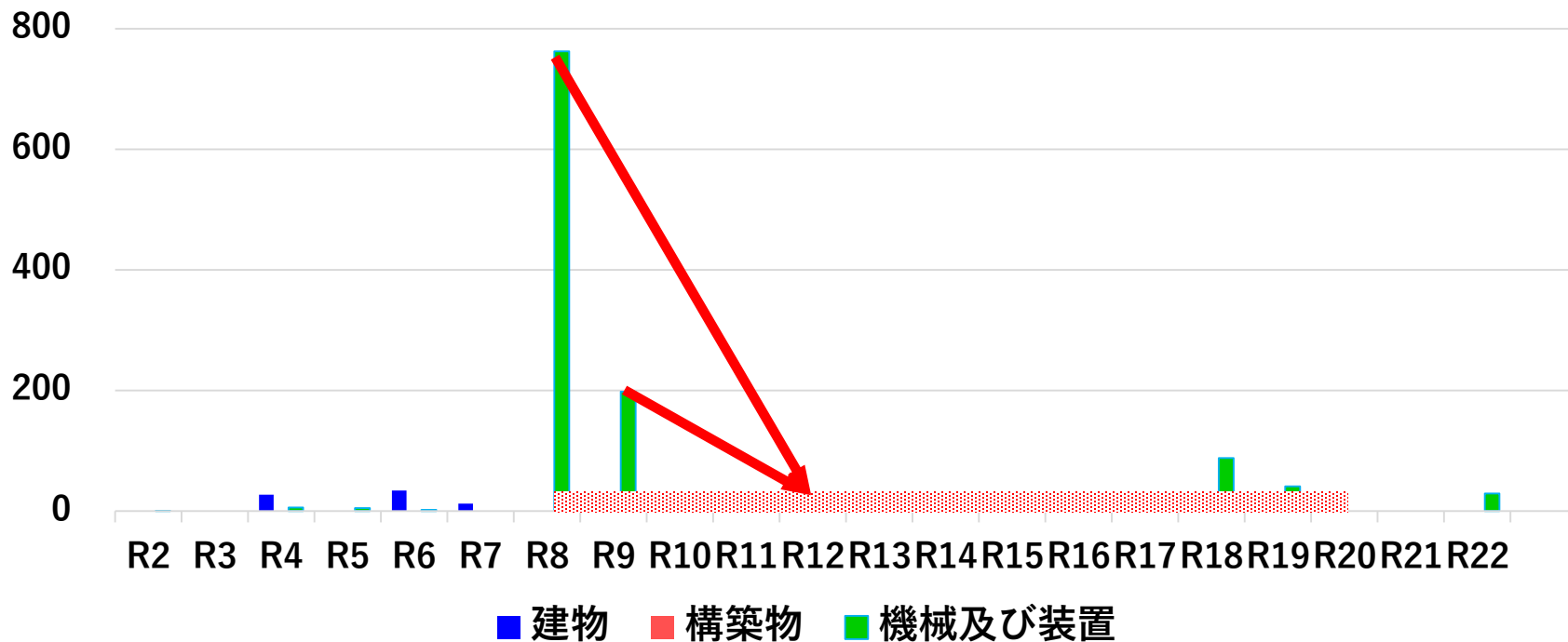


事業開始当初に整備した下水道施設を長期間に渡って活かすことで、**更新費用の平準化**を図り、**維持管理費用の低減**が必要

# 1 第1回審議会の概要整理（振返り）

## ① 今後耐用年数を迎える資産の再調達価額

(百万円)



令和8年度から9年度に耐用年数を経過する資産が多く、再調達価額は合わせて約9億6千万円になるため、資産の長寿命化を図り、更新や修繕に係る経費を、後年度へ平準化させる必要があります。

# 1 第1回審議会の概要整理（振返り）

## ② 更新事業に係る投資計画

### ◎ストックマネジメント（施設の長寿命化）計画に基づいた更新計画

（単位：百万円）

年 度		概算 事業費	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20
			（注：R5-R20は更新計画の年次配分を示す）															
雨水 事業	雨水ポンプ場SM計画策定	23	23															
	雨水ポンプ場SM機器設計	20			20		20											
	雨水ポンプ場SM機器更新	150				150												
汚水 事業	浄化センター-SM計画策定	23	23															
	浄化センター-SM機器設計	75			75		75		75		75		75		75		75	
	浄化センター-SM機器更新	700				700		700		700		700		700		700		700
合計		991	20	26	20	150	170	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55



# 1 第1回審議会の概要整理（振返り）

## （3）下水道事業を取り巻く課題（経費回収率の改善）

◆持続可能な運営に取り組むため、汚水処理に係る経費回収率を高める必要があります。



地方公営企業法第17条の2第2項

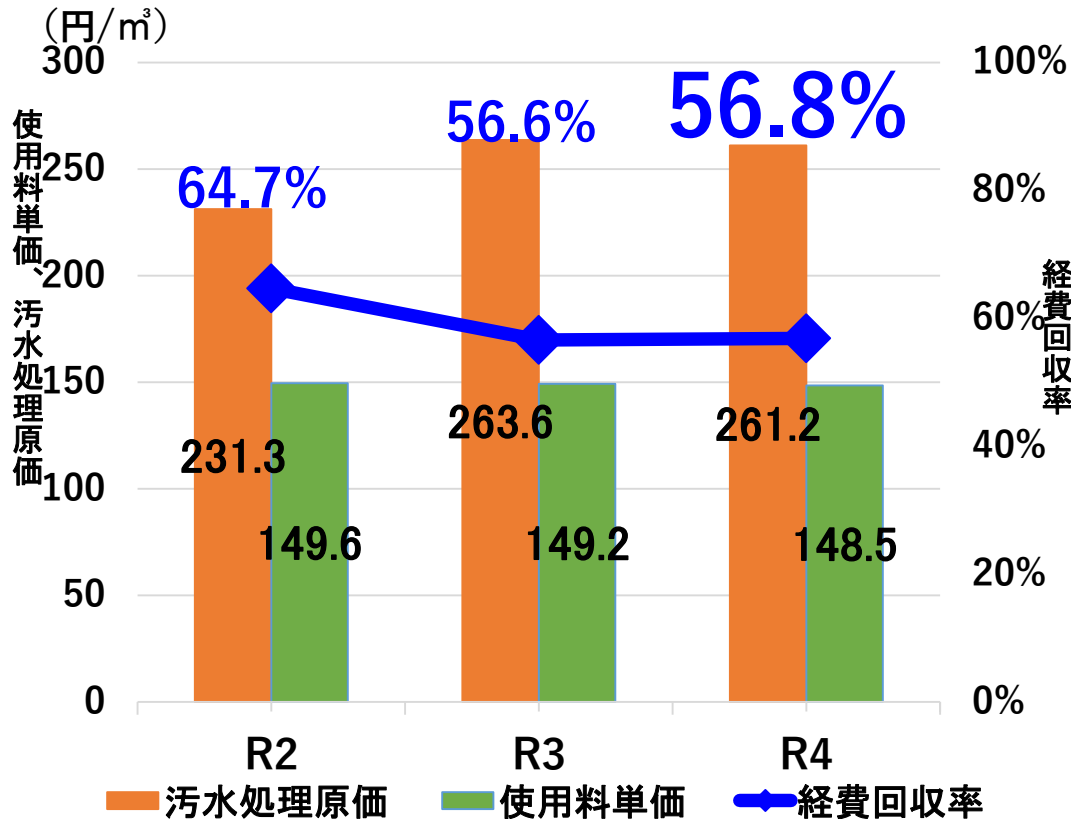
「地方公営企業の特別会計においては、その経費は、  
～(略)～ 当該地方公営企業の経営に伴う収入をもって  
充てなければならない。」

**独立採算の原則**

⇒ 汚水処理経費回収率は100%以上が望ましい

# 1 第1回審議会の概要整理（振返り）

## ① 汚水処理に係る経費回収率



汚水処理 1 m<sup>3</sup>処理  
するごとに112.7円  
が不足

収益	使用料単価148.5円	不足額112.7円
費用	汚水処理原価261.2円	

令和4年度、使用料単価148.5円/m<sup>3</sup>  
汚水処理原価261.2円/m<sup>3</sup>  
使用料による収入では、費用を賄え  
ず、汚水処理 1 m<sup>3</sup>処理するたびに  
112.7円不足

R4実績  
**56.8%**

目標数値  
**100%以上**

$$\text{経費回収率} = \frac{\text{使用料単価}}{\text{汚水処理原価}}$$

出典：決算書他

# 1 第1回審議会の概要整理（振返り）

## ② 総務省・国土交通省からの要請

整備に必須の国費の交付要件について様々な経営努力が求められており、これまでも一定には対応してきているものの、今後も取組みが必要となっている。

	項目	取組状況
交付要件	公営企業会計への移行	令和2年度移行済
	下水道使用料の検証を令和7年度までに行う	今回の審議会
重点配分要件	下水道未普及対策事業の実施	実施中
	経営状況の改善・見直し(次のいずれかに該当すること)	
	①使用料単価150円/m <sup>3</sup> 以上	148.5円/m <sup>3</sup>
	②経費回収率80.0%以上	56.8%
	③使用料改定	未実施

※公共下水道事業及び特定環境保全公共下水道事業を含めた令和4年度決算値

## 【目次】

- 1 第1回審議会の概要整理（振返り）
- 2 今後の収支計画と経営指標の見通し**
- 3 改善目標と使用料適正化の検討
- 4 その他

## 2 今後の収支計画と経営指標の見通し

### (1) 投資計画

#### ◎第6次竹原市総合計画

(目指す姿) 汚水処理、雨水対策を行い、安全で  
安心な、環境に優しいまちになっている

- ① 汚水管渠及び雨水管渠整備の早期完了
- ② 排除汚水量増加への対応
- ③ 豪雨等による災害時においても、一定の下水道機能を確保するための下水道施設の浸水対策の実施（耐水化）
- ④ ストックマネジメント（施設の長寿命化）計画による適切な施設更新

## 2 今後の収支計画と経営指標の見通し

### (1) 投資計画

(単位：百万円)

主な事業		年度																	事業 合計
		R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20		
計画策定	本川排水区基本計画	8	20																28
管渠整備	汚水管渠整備	435	326	326	326	326													1,739
	雨水管渠整備	35	40	49	86	30													240
設備増設	浄化センター機械	476																	476
耐水化 事業	マンホールポンプ	22																	22
	雨水ポンプ場	15	50																65
	浄化センター			20	30														50
ストックマネジメント 事業	雨水ポンプ場	10	13	10	75	85													193
	浄化センター	10	13	10	75	85	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	798
合計		1,011	462	415	592	526	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	3,611

## 2 今後の収支計画と経営指標の見通し

### (2) 収入確保や支出を最小限にするための取組み

#### 下水道事業に求められる経営努力(例)

収入を確保するための取組	支出を最小にするための取組
<p>1 使用料の適正化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>適切な使用料の設定 (原価等に基づく設定、資産維持費の算入等)</li> </ul> <p>2 接続率の向上</p> <p>3 その他の収入確保策</p> <p style="text-align: right;">等</p>	<p>1 広域化・共同化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施設の統廃合 (流域下水道への接続、公共下水道と農業集落排水施設の接続等)</li> <li>汚泥処理の共同化</li> <li>維持管理・事務の共同化</li> <li>ICTの利活用</li> </ul> <p>2 最適化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>下水道計画の見直し (公共下水道等から浄化槽への切替え等)</li> </ul> <p>3 老朽化対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ストックマネジメントによる長寿命化</li> <li>適切な更新年数の設定</li> <li>長寿命化させるための適切な点検・調査</li> </ul> <p>4 民間活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>包括的民間委託の導入</li> <li>コンセッションなどのPPP/PFIの導入</li> <li>指定管理者制度の導入</li> </ul> <p style="text-align: right;">等</p>

今回実施

毎年実施

検討実施中

見直し済

R5～実施中

導入済み

## 2 今後の収支計画と経営指標の見通し

### ① 本市における経営改善への取組み

#### 1. 経営改善への取組み

経費削減	下水道計画の最適化	竹原市汚水処理構想の見直し（公共下水道での整備区域の縮小：957.6ha→222.5ha）
	ストックマネジメントを用いた施設維持管理による施設更新費用の削減	竹原浄化センター・中央第2雨水排水ポンプ場等の下水道施設の更新費用の削減
	経営の効率化	職員の随時入力による下水道管路台帳システムの委託料の削減 購入図書の見直し（共有化）による購入費の削減 事務の効率化による職員の削減
	民間活力の活用	下水道施設の包括的管理民間委託方式（性能発注方式）による維持管理費の削減
収入増加	処理区域外からの汚水の受け入れ	処理区域外（隣接）からの汚水の受け入れによる使用料収入の増 ※污水管までの整備費用は使用者負担
	水洗化率（接続率）の向上	未接続世帯への戸別訪問を行い水洗化率（接続率）の向上を図る 下水道接続工事資金への無利子融資あつせん

#### 2. 現在検討中の経営改善への取組み

経費削減	広域化・共同化	水質検査の見直し：広域化を行うことによる事務費の軽減を図る
		職員の育成：「下水道道場」への参加に伴い、技術職員の育成と委託費用の軽減を図る 汚泥処理事業の共同化について、検討を行う
収入増加	遊休地の利活用	竹原浄化センターの遊休地について利活用を検討する
	屋外広告物等の設置	中央第2雨水排水ポンプ場（JR呉線隣接）について屋外広告物等による広告収入等の検討

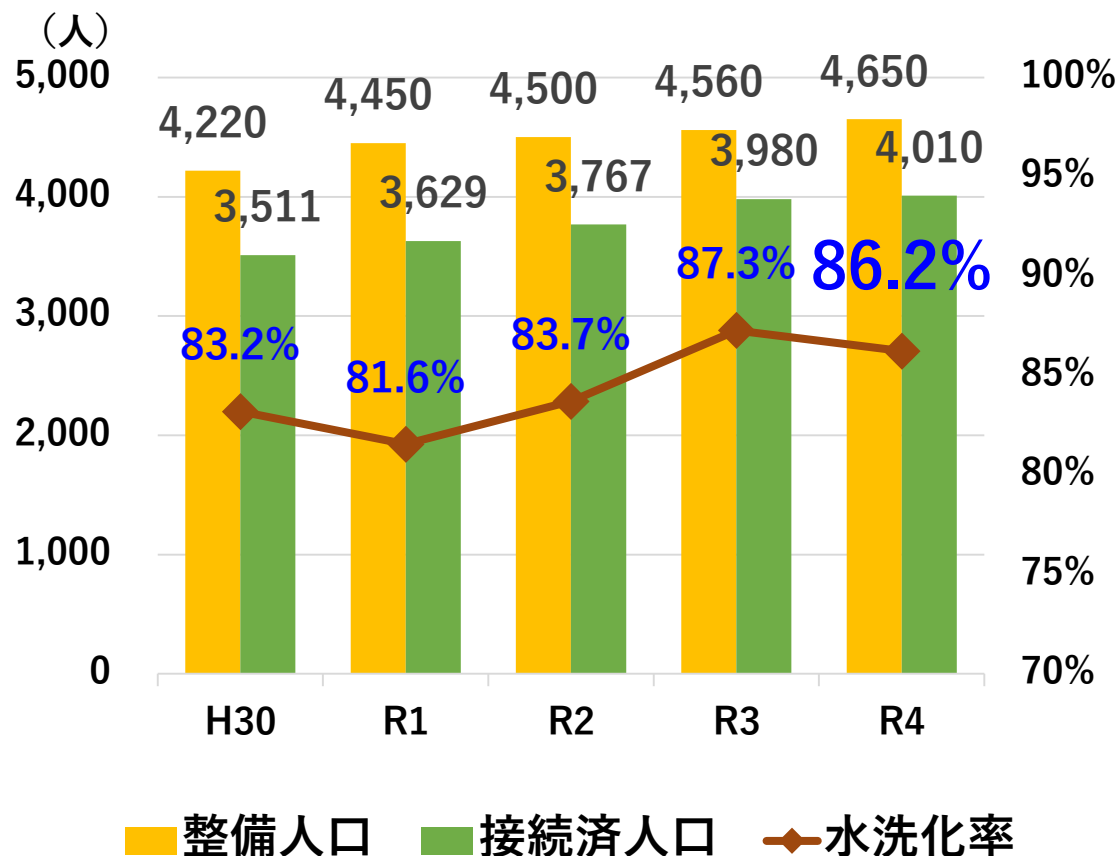
#### 3. その他の取組み

安全・安心への取組み	災害時でも継続的に事業を行うため、業務継続計画（下水道BCP）を策定
	災害時でも継続的に施設を運用するため主要な下水道施設の耐水化を図る （竹原浄化センター・皆実マンホールポンプ場・中央第2雨水排水ポンプ場）
	公共施設等へマンホールトイレを設置し、災害時のトイレを確保（たけのここども園）



## 2 今後の収支計画と経営指標の見通し

### ② 収入確保の取組み



## 水洗化率

全国平均 95.7%

類似団体平均 81.3%

本市の水洗化率

# 86.2%

$$\text{水洗化率} = \frac{\text{接続人口}}{\text{整備人口}}$$

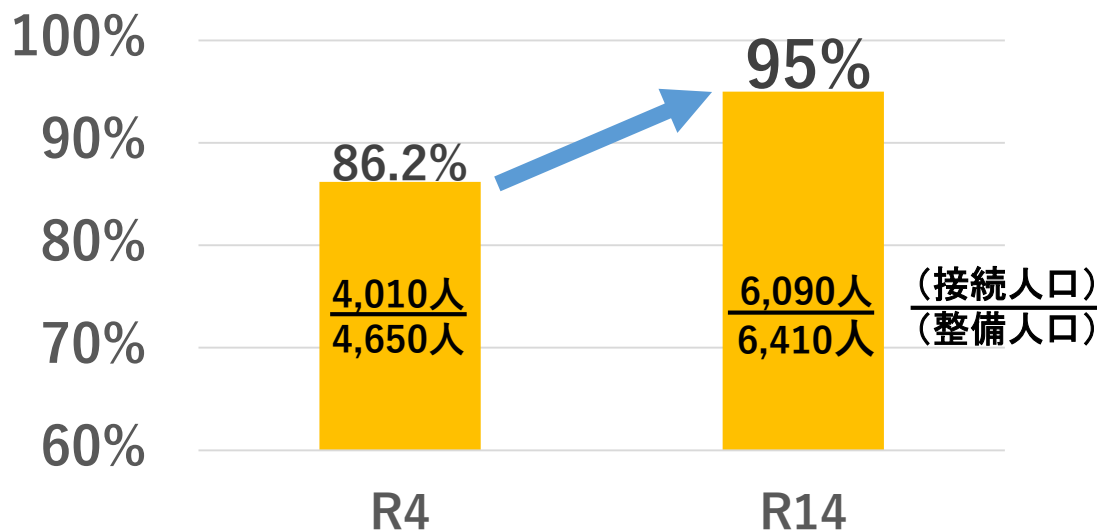
## 2 今後の収支計画と経営指標の見通し

### ② 収入確保の取組み

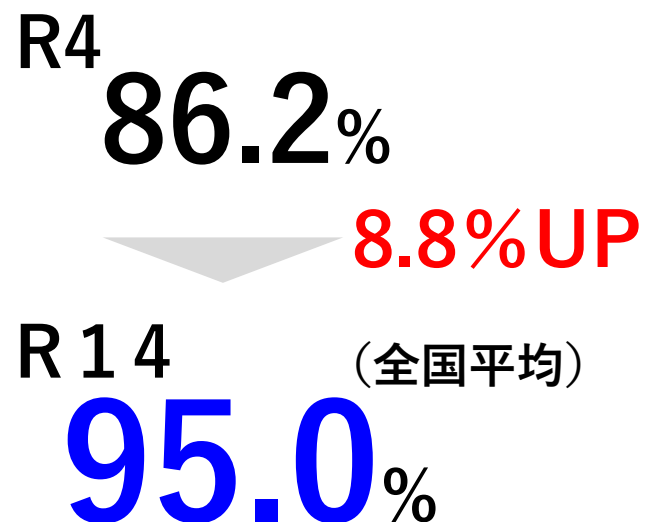
#### ◎ 継続的な啓発活動を実施

- ① 未接続の家屋へ訪問による面談やリーフレット配布
- ② 下水道接続工事資金の無利子融資あっせん（広報）

水洗化率の向上



## 水洗化率



## 2 今後の収支計画と経営指標の見通し

### ③ 支出削減の取組み

#### 1. 県市町間での広域化・共同化

⇒ 引き続き関係県市町で協議を継続

#### 2. 下水道計画の最適化

⇒ 「竹原市汚水適正処理構想」の見直し実施（H30）

（計画整備面積 957.6ha ➡ 222.5ha）

#### 3. スtockマネジメント（施設の長寿命化）による老朽化対策

⇒ 計画的な施設更新及び修繕による維持管理コストの縮減

#### 4. 民間活用

⇒ 令和6年度以降も維持管理業務の民間活用を継続実施

## 2 今後の収支計画と経営指標の見通し

### ③ 支出削減の取組み

今回の収支計画	R5	R10~
正規職員	9	5
会計年度職員	1	1
職員数合計	10	6

### 5. 職員数の最適化

事業量に見合った  
職員数の配置

令和5年4月

10名

(整備終了後)

令和10年4月

6名

(毎年業務量を確認し、職員数の適正化に取り組む)

## 2 今後の収支計画と経営指標の見通し

### ④ その他の取組み

#### ◎竹原浄化センター一遊休地の活用



遊休地の利活用を  
積極的に検討

敷地面積

約6,000㎡

#### ◎屋外広告物等による収入

公告看板設置やネーミングライツ等による収入について検討

## 2 今後の収支計画と経営指標の見通し

### (3) 収入及び支出の見通しについて

#### 収益的収支

令和4年度決算

#### 資本的収支

(経常的な経営活動の収支) 単位：万円

(施設整備, 企業債の収支) 単位：万円

収入 56,990 支出 56,990

収入 35,550 支出 56,775

下水道使用料等 6,620	維持管理費等 13,609	
一般 会計 繰 入 金	雨水負担金 10,719	支払利息 7,170
	汚水負担金 13,262	
	補助金 7,939	減価償却費等 36,211
長期前受金戻入 18,450		資本費

(減価償却費等  
- 長期前受金戻入)  
= 36,211 - 18,450  
= 17,761

現金収入

内部留保  
資金  
R3末残高  
1,819  
↓  
R4末残高  
2,128

補てん

企業債※ 21,020	建設改良費 23,931
出資金 4,816	
国庫補助金※ 8,667	元金償還金 32,844
工事負担金 1,047	
資金不足額 ▲ 21,225 (補填財源)	
消費税調整額 860	
内部留保資金 17,451	
前年度繰越資金 2,914	

※翌年度繰越資金を除く

## 2 今後の収支計画と経営指標の見通し

### (3) 収入及び支出の見通しについて

#### ◎現状における収益的収入及び支出（維持管理に係る経費）（単位：百万円）

		R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20
収入	下水道使用料	65	68	72	78	85	91	97	100	103	104	102	100	98	96	94	92
	一般会計負担金	256	271	274	245	221	221	220	217	218	211	208	206	205	209	200	200
	<b>一般会計補助金</b>	<b>64</b>	<b>62</b>	<b>65</b>	<b>55</b>	<b>82</b>	<b>82</b>	<b>82</b>	<b>82</b>	<b>81</b>	<b>82</b>	<b>82</b>	<b>82</b>	<b>82</b>	<b>82</b>	<b>82</b>	<b>82</b>
	長期前受金戻入	186	200	203	168	145	146	148	150	152	153	155	156	158	159	158	158
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	収入額合計	572	601	613	545	533	540	547	549	554	550	547	544	543	546	534	532
支出	職員給与費	45	42	42	42	42	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25
	維持管理費	85	93	98	97	98	103	104	109	108	108	111	111	114	111	112	114
	減価償却費	366	389	395	329	288	290	293	294	297	300	303	306	309	312	309	310
	支払利息	70	74	74	74	76	77	73	70	67	63	60	57	54	51	48	46
	その他	5	4	4	4	6	9	7	7	8	7	7	7	7	8	7	7
	支出額合計	572	601	613	545	509	503	503	506	504	504	506	506	509	507	501	503
当年度純利益						24	37	43	43	50	47	41	38	33	39	32	29

## 2 今後の収支計画と経営指標の見通し

### (3) 収入及び支出の見通しについて

#### ◎現状における資本的収入及び支出（投資及び借入金返済に係る経費）

(単位：百万円)

資本的収支		R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20	
収入	企業債	599	407	369	493	477	236	225	226	226	206	181	152	89	31	28	28	
	一般会計出資金	47	47	46	46	44	41	35	31	27	22	22	21	20	19	17	14	
	<b>一般会計補助金</b>							<b>2</b>	<b>14</b>	<b>14</b>	<b>14</b>	<b>14</b>	<b>14</b>	<b>14</b>	<b>14</b>	<b>14</b>	<b>14</b>	<b>14</b>
	国補助金	423	188	175	262	244	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30
	工事負担金	14	27	47	59	59	59	40	20									
	収入額合計	1,083	669	637	860	824	366	331	321	297	272	246	217	153	94	88	86	
	支出	建設改良費	1,032	486	439	616	550	71	71	71	71	71	71	71	71	71	71	71
	企業債償還金	339	369	396	412	430	444	434	434	422	412	395	369	312	245	226	221	
	支出額合計	1,371	855	835	1,028	980	515	505	505	493	483	467	441	383	316	297	292	
収入額-支出額		△ 288	△ 186	△ 197	△ 168	△ 156	△ 149	△ 174	△ 184	△ 197	△ 211	△ 220	△ 224	△ 230	△ 223	△ 209	△ 207	
財源 補填	損益勘定留保資金	142	163	180	143	135	149	174	183	194	147	148	150	151	153	151	152	
	利益剰余金処分別										62	70	72	77	68	55	52	
	繰越工事資金	93																
	消費税収入調整額	53	23	18	25	20			1	2	2	2	2	2	2	2	2	
補填額合計		288	186	197	168	156	149	174	184	197	211	220	224	230	223	209	207	
損益勘定留保資金残高		59	85	98	116	124	119	89	50	1								
利益剰余金残高						24	60	104	147	197	182	153	119	75	46	23		
補填財源残高		59	85	98	116	147	179	193	197	198	182	153	119	75	46	23	0	



## 2 今後の収支計画と経営指標の見通し

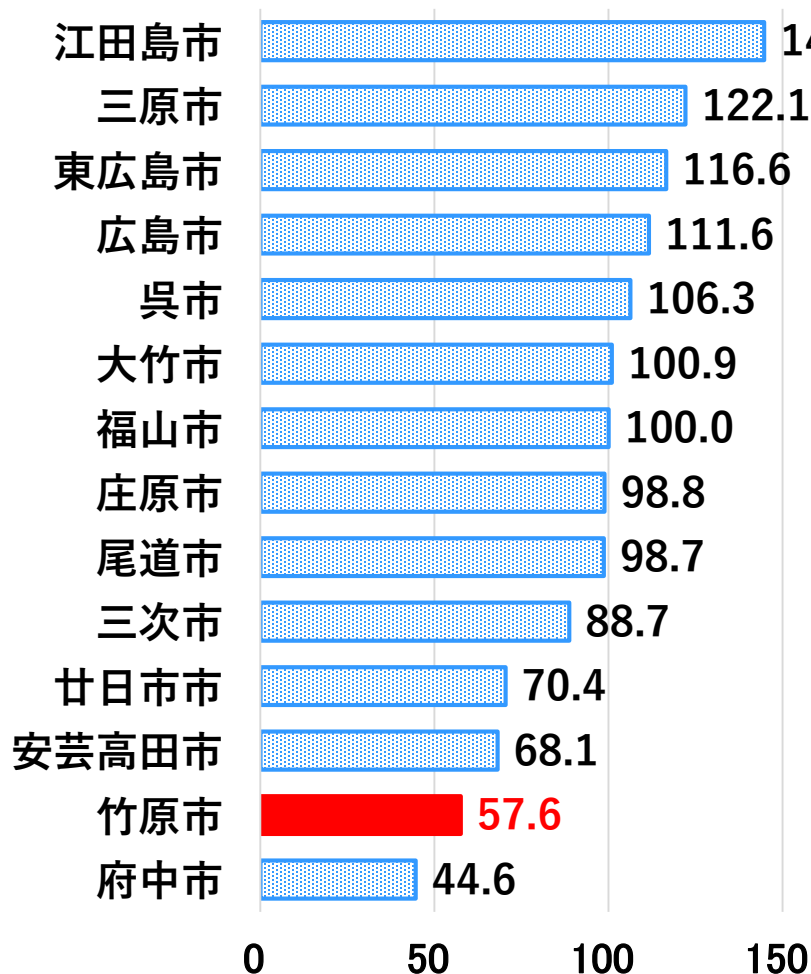
### (4) 使用料単価及び汚水処理原価の見通しについて

	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20
①有収水量(千 $m^3$ )	442	462	484	524	572	616	652	678	695	702	689	675	661	648	635	623
②使用料収入(百万円)	65	68	72	78	85	91	97	100	103	104	102	100	98	96	94	92
③汚水処理経費(百万円)	104	114	117	111	120	111	110	114	107	113	116	115	117	110	115	118
④使用料単価(円/ $m^3$ ) ②÷①	148	148	148	148	148	148	148	148	148	148	148	148	148	148	148	148
⑤汚水処理原価(円/ $m^3$ ) ③÷①	235	246	242	211	211	181	169	168	154	162	168	170	177	169	182	190
⑥汚水処理経費回収率 ④÷⑤	63%	60%	61%	70%	70%	82%	88%	88%	96%	92%	88%	87%	83%	88%	81%	78%

**独立採算の原則 ⇒ 経費回収率は100%以上が望ましい**

## 2 今後の収支計画と経営指標の見通し

### (4) 使用料単価及び汚水処理原価の見通しについて



○全国平均 99.7%

○類似団体平均 82.6%

経費回収率向上には

①汚水処理原価を下げる

②使用料単価を上げる

が必要

## 【目次】

- 1 第1回審議会の概要整理（振返り）
- 2 今後の収支計画と経営指標の見通し
- 3 改善目標と使用料適正化の検討**
- 4 その他

### 3 改善目標と使用料適正化の検討

#### (1) 改善目標

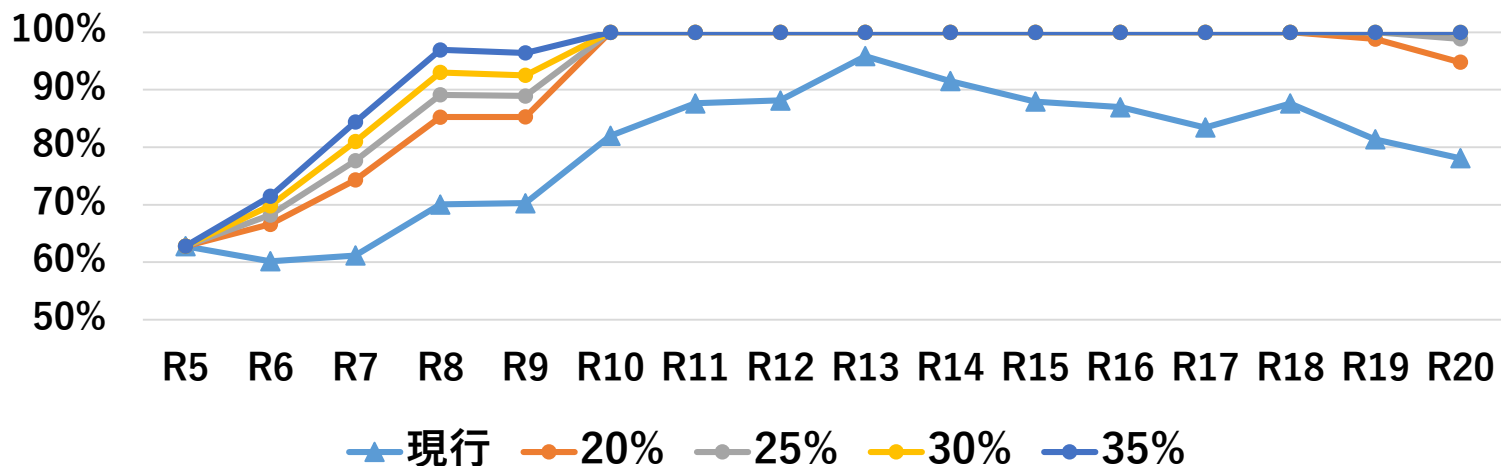
求められている項目・水準	令和4年度の現状
使用料単価 150 円 / m <sup>3</sup> 以上	148.5円
汚水処理経費回収率 80 % 以上	56.8%
3,000 円 / 月 ・ 20 m <sup>3</sup> ( 税 抜 )	2,480円
一般会計からの繰出金の縮減	367,361千円/年
うち公費で負担すべき額	287,970千円/年
うち公費負担以外(補助金)	79,391千円/年

縮減が  
必要

### 3 改善目標と使用料適正化の検討

#### (2) 収支計画シミュレーション

汚水処理経費回収率



		R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20
改 定 率	現行	62.8%	60.2%	61.2%	70.0%	70.3%	82.0%	87.6%	88.1%	95.9%	91.5%	88.0%	87.0%	83.4%	87.6%	81.4%	78.1%
	20%	62.8%	66.6%	74.3%	85.2%	85.3%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	98.8%	94.8%
	25%	62.8%	68.2%	77.6%	89.1%	88.9%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	30%	62.8%	69.8%	81.0%	93.0%	92.5%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	35%	62.8%	71.5%	84.4%	96.9%	96.4%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

### 3 改善目標と使用料適正化の検討

## (2) 収支計画シミュレーション

### (参考例) 改定案の一例

【一般用】 税抜き

使用料区分	水量区分(m <sup>3</sup> )	現行	改定率20%		改定率25%		改定率30%		改定率35%	
		単価	単価	差	単価	差	単価	差	単価	差
基本使用料	—	800	960	+160	1,000	+200	1,040	+240	1,080	+280
超過使用料 (従量制)	0 ~ 8	0	20	+20	25	+25	30	+30	35	+35
	9 ~ 20	140	160	+20	165	+25	170	+30	175	+35
	21 ~ 30	160	180	+20	185	+25	190	+30	195	+35
	31 ~ 50	180	200	+20	205	+25	210	+30	215	+35
	51 ~ 100	190	210	+20	215	+25	220	+30	225	+35
	101 ~ 200	200	220	+20	225	+25	230	+30	235	+35
	201 ~	230	250	+20	255	+25	260	+30	265	+35

【基本料金】 現行料金 × 改定率、 基本水量廃止

【従量料金】 改定率に合わせた1m<sup>3</sup>あたりの改定必要額

### 3 改善目標と使用料適正化の検討

#### (2) 収支計画シミュレーション

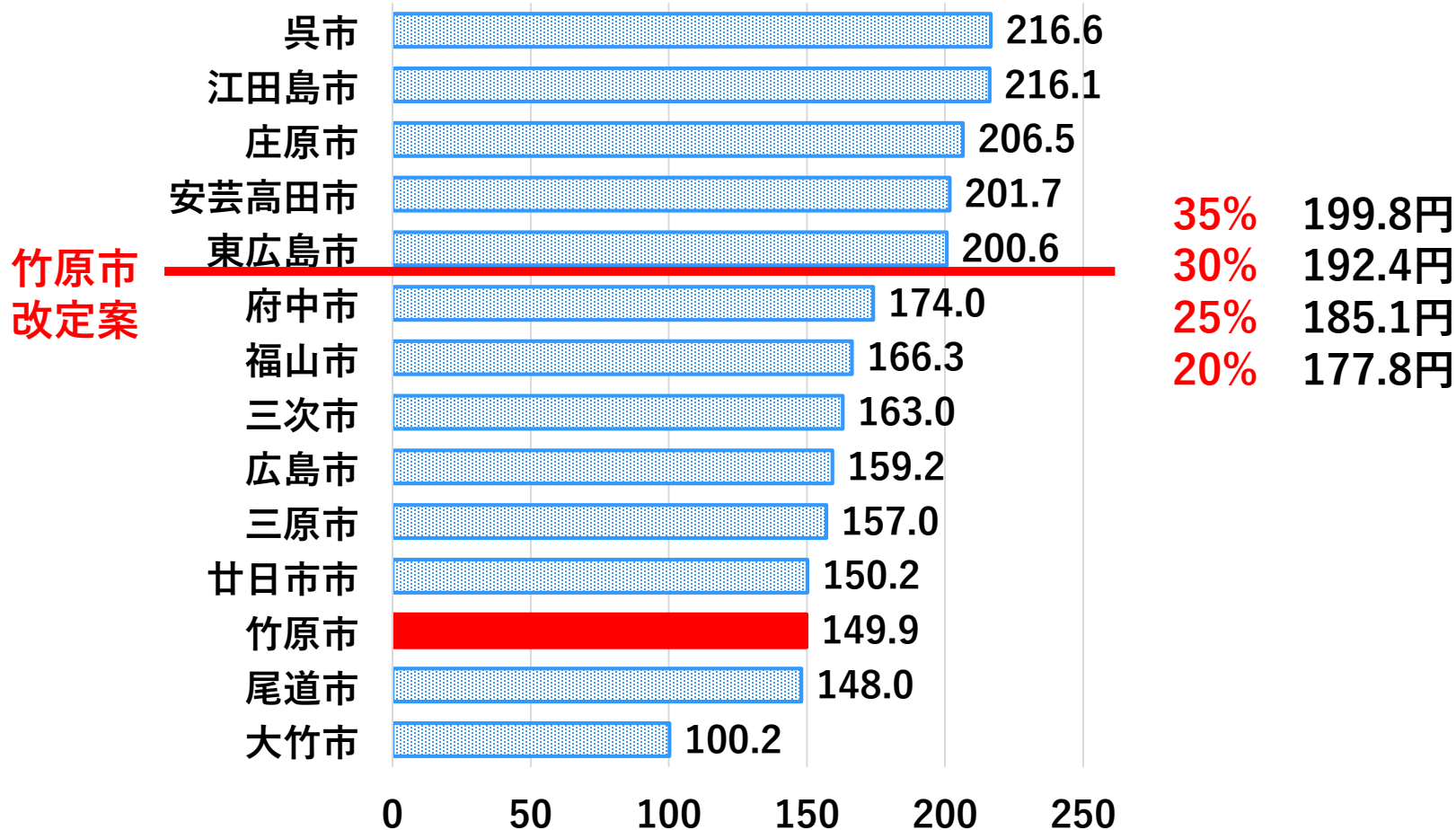
求められている項目・水準	改定率20%	改定率25%	改定率30%	改定率35%
※注1 使用料単価150円/m <sup>3</sup> 以上	177.8円	185.1円	192.4円	199.8円
汚水処理経費回収率80%以上	R8からR20まで達成		R7からR20まで達成	
汚水処理経費回収率100%以上	R10からR18 まで達成	R10からR19 まで達成	R10からR20まで達成	
※注1 3,000円/月・20m <sup>3</sup> (税抜)	3,040円	3,180円	3,320円	3,460円
一般会計からの繰出金の縮減				
年間削減額(平均)	▲19,270千円	▲23,876千円	▲28,453千円	▲33,024千円
うち公費負担以外(補助金)	▲14,779千円	▲16,145千円	▲17,192千円	▲18,175千円
(R6～R20の削減額合計)	▲289百万円	▲358百万円	▲427百万円	▲495百万円
うち公費負担以外(補助金)	▲222百万円	▲242百万円	▲258百万円	▲273百万円

注1：1カ月20m<sup>3</sup>(税抜)使用した場合の改定額は参考例

### 3 改善目標と使用料適正化の検討

#### (2) 収支計画シミュレーション

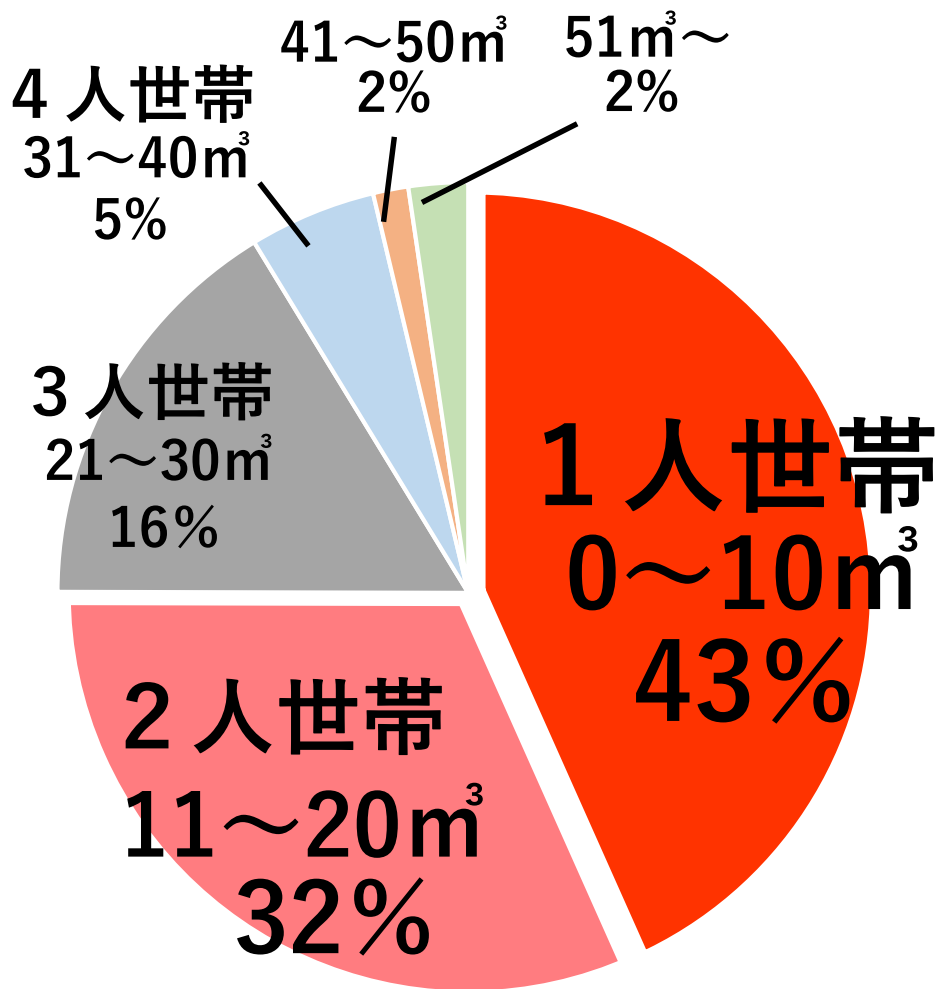
使用料単価 (円/m<sup>3</sup>)





### 3 改善目標と使用料適正化の検討

#### (2) 収支計画シミュレーション



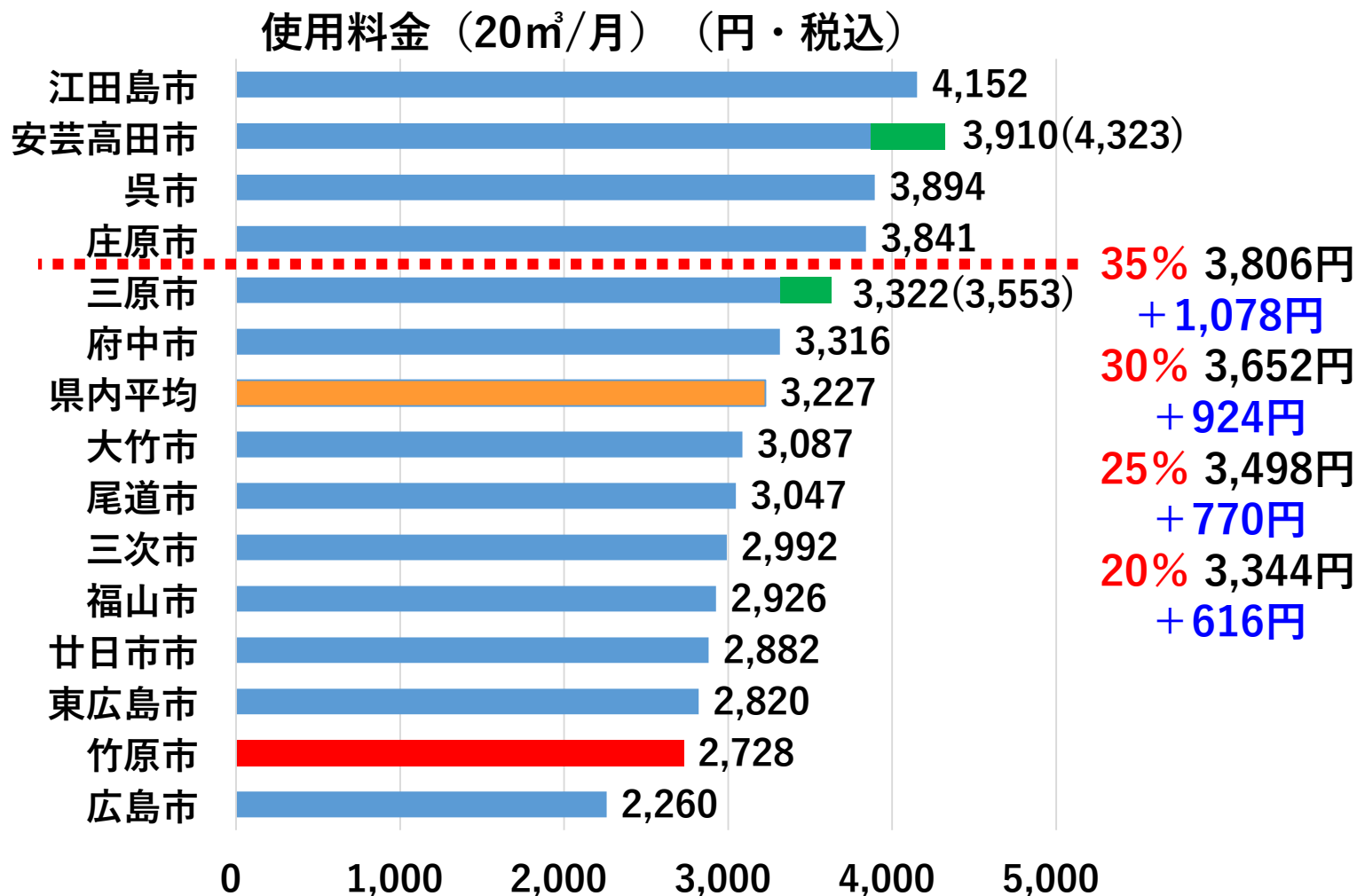
# 使用水量別 使用者割合

(1か月あたり)

1~2人世帯で  
**75%**

### 3 改善目標と使用料適正化の検討

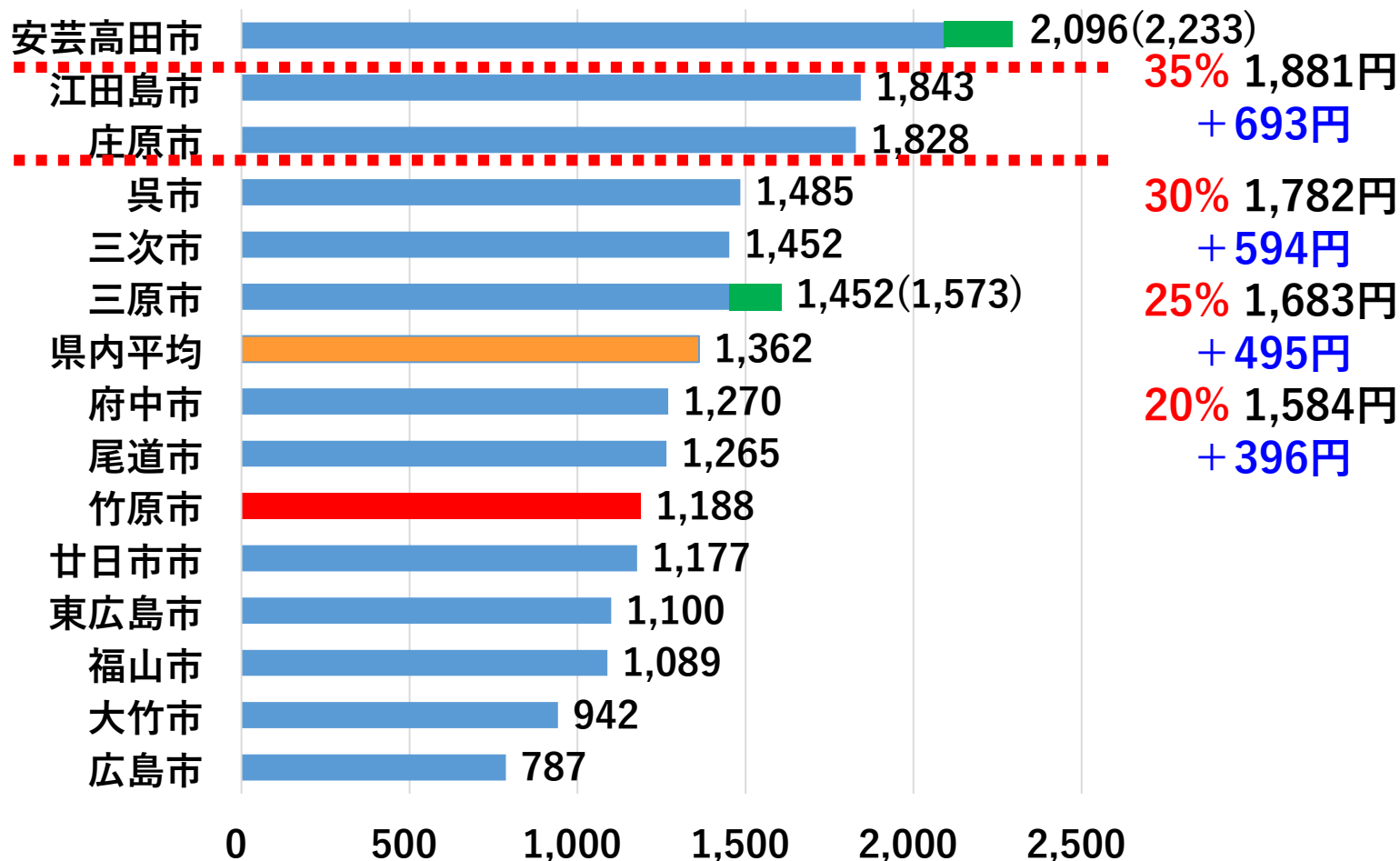
#### (3) 県内市の下水道使用料との比較（令和5年4月1日現在）



### 3 改善目標と使用料適正化の検討

#### (3) 県内市の下水道使用料との比較（令和5年4月1日現在）

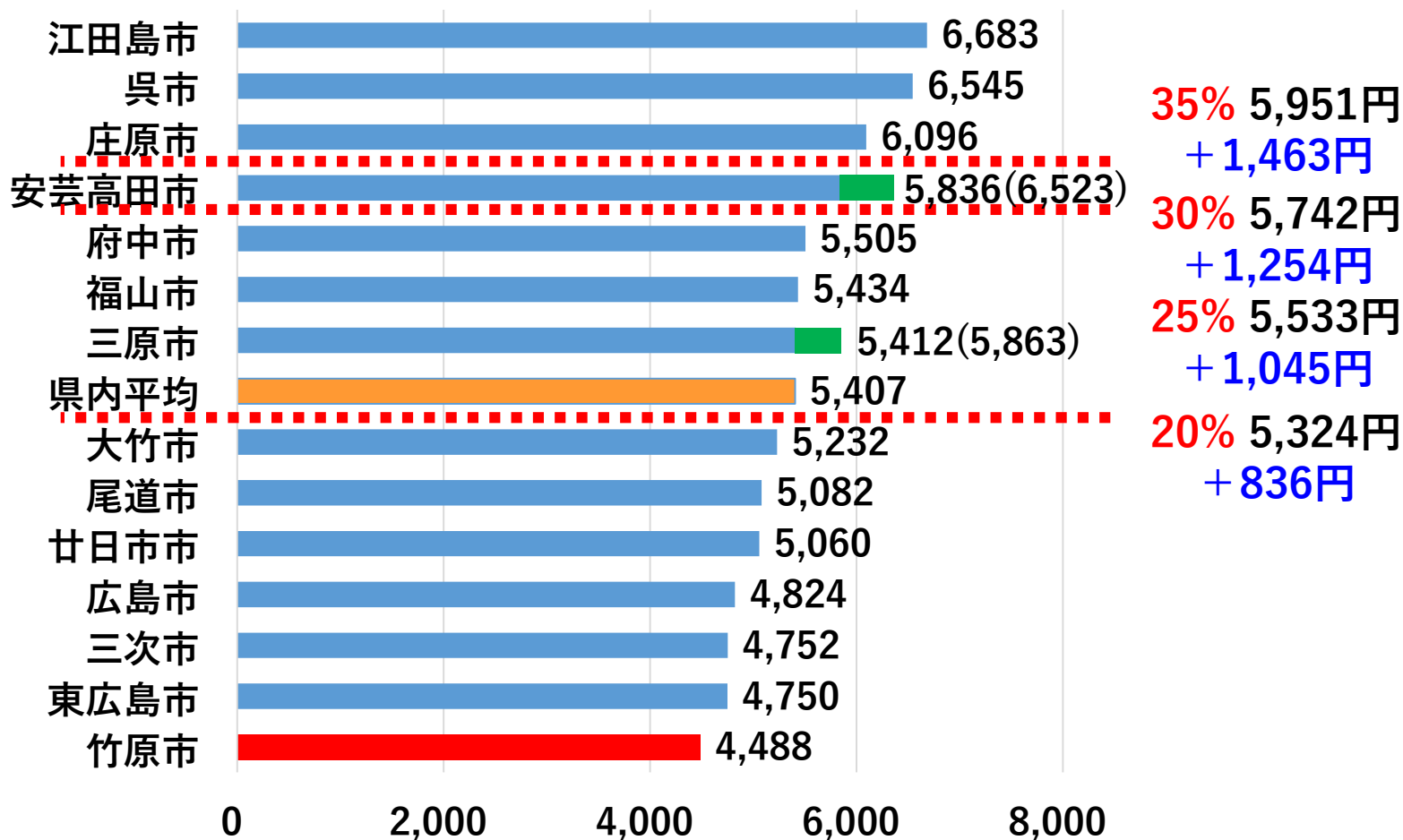
使用料金（10m<sup>3</sup>/月）（円・税込）



### 3 改善目標と使用料適正化の検討

#### (3) 県内市の下水道使用料との比較（令和5年4月1日現在）

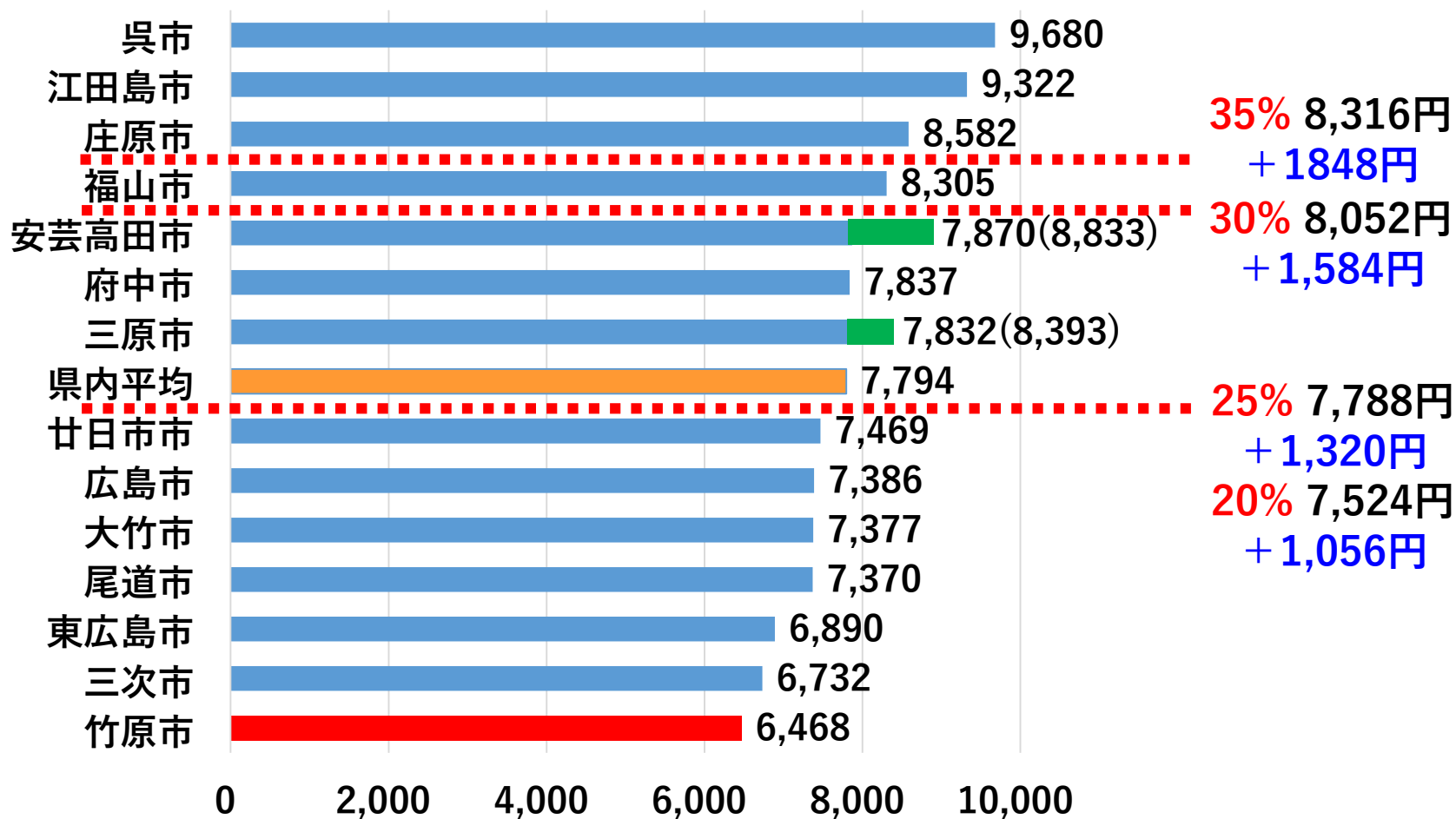
使用料金（30m<sup>3</sup>/月）（円・税込）



### 3 改善目標と使用料適正化の検討

#### (3) 県内市の下水道使用料との比較（令和5年4月1日現在）

使用料金（40m<sup>3</sup>/月）（円・税込）



### 3 改善目標と使用料適正化の検討

#### (4) 他市で実施された最近の改定状況

	呉市	江田島市	三原市	尾道市	廿日市市	大竹市	安芸高田市	庄原市
改定年月日	R2.4.1	R3.10.1	R5.4.1	R5.2.1	R5.2.1	R5.4.1	H30.12.1 (R5.12.1予定)	H28.6.1
改定率 (20m <sup>3</sup> /月)	9.9%	14.7%	※1 20.8%	※2 15.4%	7%	10.2%	14.7%	7.7%
平均改定率	9.9%	22.6%	約20%	15.5%	7%	8%	10% (10%予定)	8%
現行使用料 (20m <sup>3</sup> /月・税込)	3,894円	3,685円	3,322円	3,047円	2,882円	3,087円	3,910円	3,841円
現行使用料 (20m <sup>3</sup> /月・税抜)	3,540円	3,350円	3,020円	2,770円	2,620円	2,806.4円	3,555円	3,492円

※1 三原市の審議会においては、一律30%引上げの答申であったが、令和7年度まで激変緩和措置として約20%改定、令和8年度から約10%(合わせて30%)の改定をする。【2段階改定】

※2 尾道市の審議会においては、31%引き上げが必要との答申であったが、令和5年度からの引き上げは15.5%改定とし、令和8年度に改めて検証する【2段階改定】

### 3 改善目標と使用料適正化の検討



#### (5) 個別汚水処理（浄化槽）との経費比較

	①下水道	②浄化槽	差 ①－②
改定率	月20m <sup>3</sup> /年間	5人槽 /年間	
現行	32,736 円	44,780 円	△ 12,044
20%	40,128 円		△ 4,652
25%	41,976 円		△ 2,804
30%	43,824 円		△ 956
35%	45,672 円		892

※浄化槽維持管理費（保守点検＋清掃料＋法廷検査）は令和4年度平均値

### 3 改善目標と使用料適正化の検討

#### (6) まとめ

項目	改定率20%	改定率25%	改定率30%	改定率35%
使用料単価150円/m <sup>3</sup> 以上	◎	◎	◎	◎
汚水処理経費回収率80%以上	○	○	◎	◎
汚水処理経費回収率100%以上	○	○	◎	◎
3,000円/月・20m <sup>3</sup> (税抜)	◎	◎	◎	◎
使用者の負担増	小			大
一般会計繰出金の縮減効果	小			大
下水道と合併浄化槽の 維持管理費用の差	大	中	小	中



## 【目次】

- 1 第1回審議会の概要整理（振返り）
- 2 今後の収支計画と経営指標の見通し
- 3 改善目標・使用料の適正化の検討

## 4 その他

# 下水道使用料の検討手順について

財政計画等の  
策定・確認

- 施設の整備・管理計画
- 排水需要の予測
- 職員の配置計画

収支の状況を確認し  
**使用料の目標水準**を  
判断する

総合的な検討を行い  
**使用料体系を構築**する

収支見積りに基づく  
使用料改定の必要性の確認

- 収支の見積(現行使用料金表)
- 支出(維持管理費・資本費)の推計
- 収支バランスの確認

収支過不足の確認

- 使用料の改定率の目安

使用料体系の検討

- 基本使用料・基本水量の設定
- 従量制使用料の設定

# 今後のスケジュールについて

令和5年度						スケジュール概要
項目	7月	8月	9月	10月	11月	
審議会	7月 13日		<b>9月 14日</b>	10月 下旬	11月 下旬	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <b>第1回 審議会</b> </div> <p>● <b>諮問</b> ・ 本日の議題</p>		<div style="border: 2px solid red; padding: 5px; text-align: center;"> <b>第2回 審議会</b> </div> <p>・ <b>今後の収支見 通し</b> ・ <b>目指すべき使 用料水準の検討</b></p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <b>第3回 審議会</b> </div> <p>・ 前回までの意 見を反映した収 支見通しの提示 ・ 下水道使用料 体系の検討 ・ 答申内容の検 討</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <b>最終回 審議会</b> </div> <p>● <b>答申</b></p>	

審議状況によって、審議回数が増減する場合があります